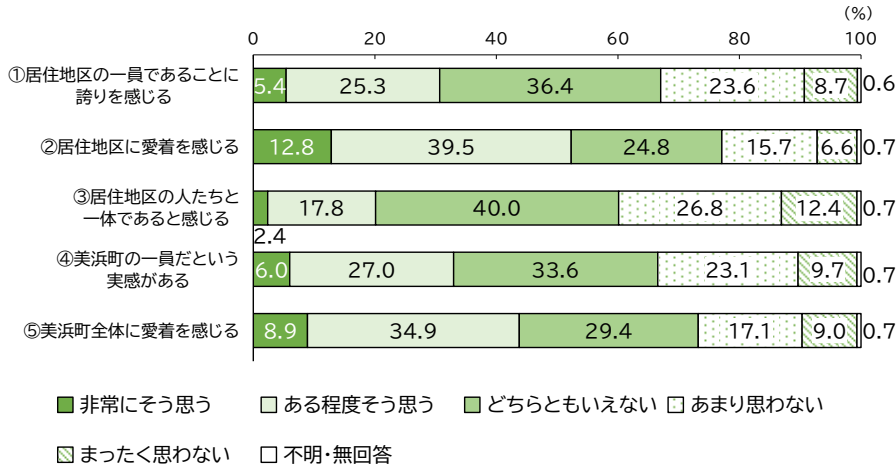


調査目的：「第6次美浜町総合計画」の策定にあたり、町民の生活環境に対する評価や、まちづくりに関する考えを把握することを目的として実施。
調査対象：町内在住の3,000人
調査方法：郵便による配布・回収、WEBアンケートによる回答
調査時期：令和5（2023）年11月23日～12月14日
回収状況：有効回答数 1,053件（有効回答率 35.1%）

生活環境の評価

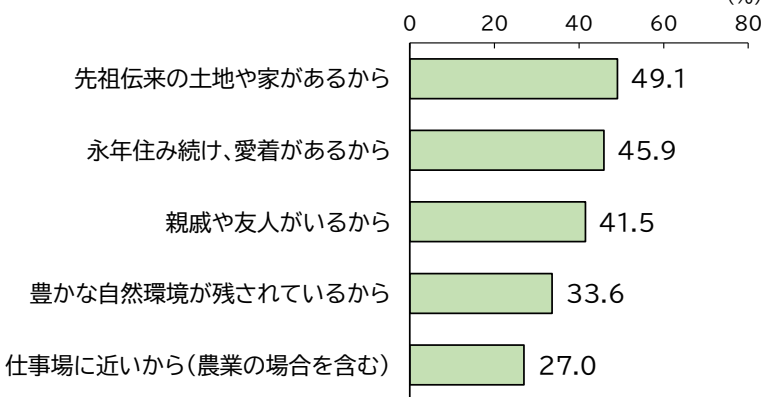
「居住地区に愛着を感じる」人は5割以上。

地区や美浜町への愛着について(n=1,053、単数回答)

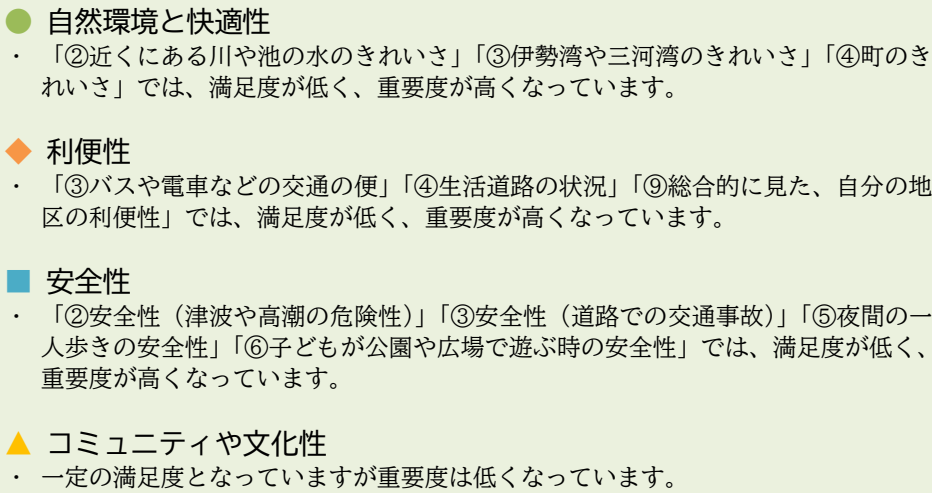


住み続けたい理由は
「先祖伝来の土地や家があるから」が約5割。

住み続けたい理由 上位5位(n=752、複数回答)



- ・性別にみると、女性では「親戚や友人がいるから」が多くなっています。
- ・年代別にみると、30 歳代では「子どもを育てるのに適しているから」が、60 歳代では「永年住み続け、愛着があるから」が、70 歳以上では「先祖伝来の土地や家があるから」「永年住み続け、愛着があるから」が他の年代と比べて多くなっています。
- ・居住地区別にみると、河和では「生活に便利だから」「通勤通学に便利だから」が、河和南部、野間では「先祖伝来の土地や家があるから」が他の地区と比べて多くなっています。

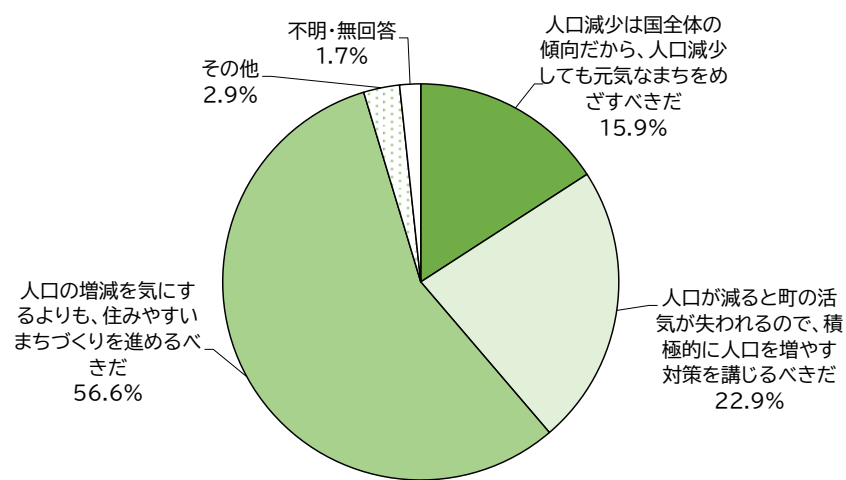


- ・ それぞれの項目において、結果の加重平均を求め、満足度と重要度の加重平均の平均を原点とした2軸4象限にプロットすることで、各項目について、満足度と重要度の関係を評価しました。
- ・ なお、加重平均は、満足度については、「非常に満足」を2点、「ある程度満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「少し不満」を-1点、「不満」を-2点、また、重要度については、「非常に重要」を2点、「ある程度重要」を1点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重要ではない」を-1点、「重要でない」を-2点の評点による重みを与えてその平均を算出しています。

人口減少時代の美浜町は？

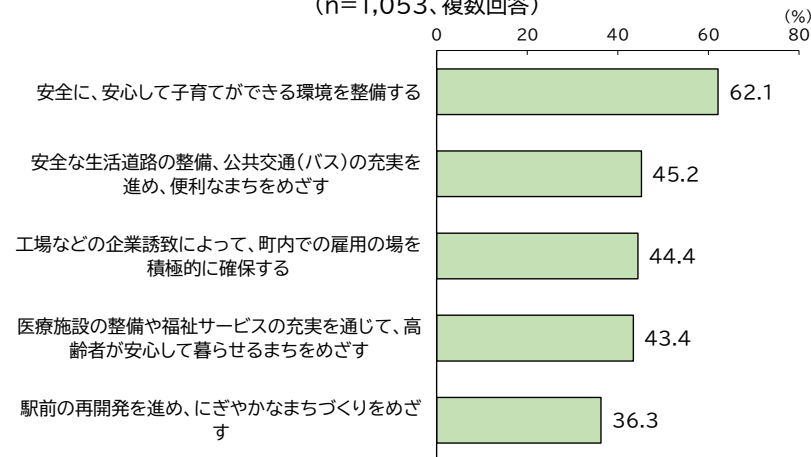
「人口の増減を気にするよりも、住みやすいまちづくりを進めるべきだ」が最も多く5割以上。

人口減少時代の美浜町について(単数回答)



「安全に、安心して子育てができる環境を整備する」が最も多く6割以上。

人口減少に対して、特に重要だと思う対策 上位5位
(n=1,053、複数回答)



(方針について)

- ・「人口の増減を気にするよりも、住みやすいまちづくりを進めるべきだ」が最も多く56.6%、次いで「人口が減ると町の活気が失われるので、積極的に人口を増やす対策を講じるべきだ」が22.9%、「人口減少は国全体の傾向だから、人口減少しても元気なまちをめざすべきだ」が15.9%などとなっています。
- ・性別にみると、男性では「人口が減ると町の活気が失われるので、積極的に人口を増やす対策を講じるべきだ」が、女性では「人口の増減を気にするよりも、住みやすいまちづくりを進めるべきだ」が多くなっています。

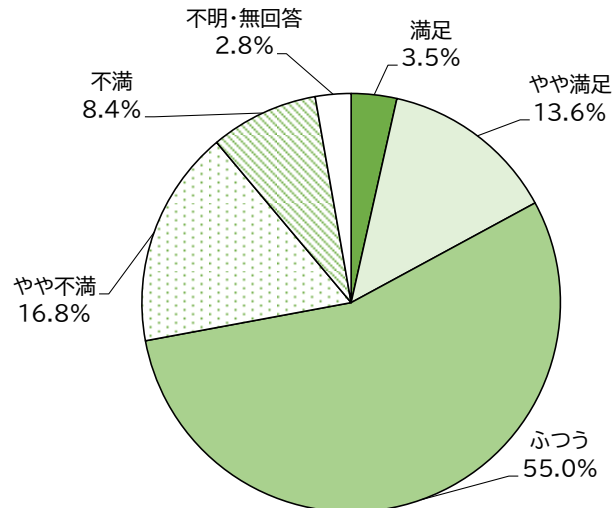
(対策について)

- ・「安全に、安心して子育てができる環境を整備する」が最も多く62.1%、次いで「安全な生活道路の整備、公共交通(バス)の充実を進め、便利なまちをめざす」が45.2%、「工場などの企業誘致によって、町内での雇用の場を積極的に確保する」が44.4%などとなっています。

子育て環境や支援の評価

「やや不満」「不満」が2割以上。

子育ての環境や支援への満足度(n=1,053、単数回答)

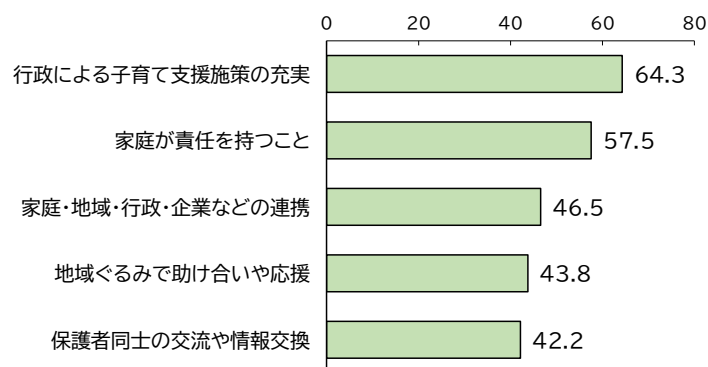


- ・30歳代、40歳代では「満足・やや満足」の割合が他の年代と比べて多くなっています。

子どもを安心して育てていくために重要なことは？

「行政による子育て支援施策の充実」が最も多く6割以上。

子どもを安心して育てていくために、
今後、特に重要なこと 上位5位(n=1,053、複数回答)

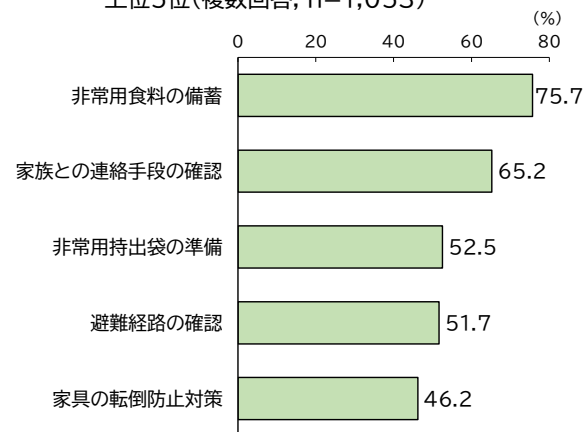


- ・年代別にみると、20歳代以下では「行政による子育て支援施策の充実」が、30歳代では「行政による子育て支援施策の充実」「企業による子育て支援対策の充実」が、60歳代、70歳以上では「地域ぐるみで助け合いや応援」が他の年代と比べて多くなっています。
- ・居住地区別にみると、奥田では「企業による子育て支援対策の充実」が多くなっています

地震・津波対策は？

「非常用食料の備蓄」が最も多く7割以上。

今後特に重要だと思われる地震・津波対策
上位5位(複数回答, n=1,053)

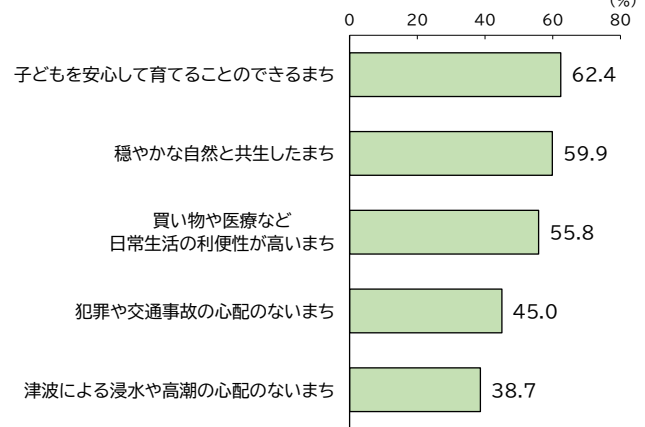


- ・性別にみると、女性では「家具の転倒防止対策」「非常用食料の備蓄」「防災用メールの登録」「非常用持出袋の準備」「家族との連絡手段の確認」が多くなっています。
- ・年代別にみると、20歳代以下では「自宅の耐震改修」「避難経路の確認」「防災用戸別受信機の購入」が、40歳代では「家族との連絡手段の確認」が他の年代と比べて多くなっています。

これからの美浜町にふさわしいイメージは？

「子どもを安心して育てることのできるまち」が最も多く6割以上。

美浜町のこれからの町の姿として、ふさわしいイメージ
上位5位(n=1,053、複数回答)



- ・性別にみると、男性では「公共施設や道路などが整備された機能的なまち」が、女性では「高齢者が生き生きと暮らせるまち」「津波による浸水や高潮の心配のないまち」が多くなっています。
- ・年代別にみると、20歳代では「国際交流が盛んなまち」が、30歳代では「子どもを安心して育てることのできるまち」が、60歳代では「高齢者が生き生きと暮らせるまち」が、70歳以上では「買い物や医療など日常生活の利便性が高いまち」「高齢者が生き生きと暮らせるまち」が他の年代と比べて多くなっています。
- ・居住地区別にみると、野間では「国際交流が盛んなまち」「地域の歴史や伝統、文化を大切にしたまち」が、奥田では「公共施設や道路などが整備された機能的なまち」が他の地区と比べて多くなっています。